2024 年度学術講演会　2024 年 4 月 7 日（日）10：00～11：10

山根 源之

東京歯科大学名誉教授

一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会理事長

『口腔粘膜健診の実際

−見落とせない口腔粘膜の色と形態の変化−』

＜要旨＞

口腔がんの早期発見やがんになる可能性がある白板症、紅板症、扁平苔癬などの口腔潜在的悪性疾患、そして日常生活に強く影響する難治性口腔粘膜疾患などを健診時に見つけることは重要です。そのためには日頃より口腔粘膜の色と形態の変化に着目して、被健診者を定期的に観察することが大事です。口腔がんについては、現在行われている対策型検診（集団検診）は、希望者を対象としており、１人あたりの検診機会は限られます。また、広がりつつある任意型検診（個別検診）は、歯科クリニックを受診した患者を対象とし、受診者の訴えなしに行われるため口腔がん発見の機会は対策型検診よりも増加します。

さらに日々の歯科診療の際に、その日の診療目的にはなくても口腔粘膜を観察する習慣をつけることを勧めます。

多くの歯科クリニックではう蝕や歯周病管理のため歯科衛生士が口腔衛生管理を実施しています。また、口腔がん好発年齢である高齢者は、居宅生活者、老健等の施設入所者、病院入院者などに別れますが、最近では各施設において歯科診療の機会が増加するとともに歯科関係者以外の方々による口腔ケアがおこなわれています。これは口腔の健康維持が誤嚥性肺炎の予防など健康寿命の延伸に影響することが判っているからです。

歯科衛生士、歯科医師が担当する口腔衛生管理では、より一層口腔粘膜の観察に力を入れる必要があります。それに加えて、看護師、介護職員、家族等が行っている一般の口腔ケアの際にも口腔粘膜の色と形態の変化を観察し、気になる場合は直ちに専門医療機関へ相談することが口腔がん等の早期発見につながります。

本講演では、口腔健診をする際に、何を診て（視診）どう触るのか（触診）の具体的方法を動画でお見せします。そして問題となる色と形態の変化はどのようなものか症例を供覧し解説します。口腔粘膜の観察を繰り返すことで、健常所見が頭に入り、その後の観察で少しの変化にも気がつくことになるでしょう。

本学会の柱のひとつである歯科ドックを実施されている方々だけでなく、国民の口腔の健康維持・増進に貢献されている皆様のお役に立てれば幸いです。

＜略歴＞

1970 年　東京歯科大学卒業

1974 年　東京歯科大学大学院歯学研究科修了（口腔外科学専攻）歯学博士

1996 年　東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座主任教授

　　東京歯科大学市川総合病院歯科･口腔外科部長（2011 年 3 月まで）

1998 年　東京歯科大学市川総合病院副病院長（2010 年 5 月まで）

2006 年　東京歯科大学口腔がんセンター長併任（2011 年 3 月まで）

2011 年　東京歯科大学名誉教授(現在)

2012 年　NPO 法人口腔がん早期発見システム全国ネットワーク副理事長（～現在）

2012 年　一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会理事長（～現在）

2024 年度学術講演会　2024 年 4 月 7 日（日）11：10～12：10

田野 ルミ
国立保健医療科学院　生涯健康研究部

『歯科での禁煙支援』

＜要旨＞

喫煙は健康の阻害要因であるため、世界保健機関（WHO）は、たばこ規制枠組条約を制定し、2005 年に発効しました。日本も発効年から参加しており、国際的な枠組みに基づくたばこ規制・対策が進められています。

喫煙は、がん、脳卒中や虚血性心疾患などの循環器疾患、慢性閉塞性肺疾患や結核などの呼吸器疾患、糖尿病など、様々な疾患との関係は知られているところであり、歯や口腔にも様々な症状や疾患が発現します。なかでも、口腔がんと歯周病は喫煙との科学的な因果関係が確立しているとともに、喫煙は歯周治療をはじめとした歯科治療に影響を及ぼします。

歯科は幅広い年代の受診者に対して継続的に関わり、視覚的に把握できる歯や口腔を対象としていることから、禁煙の動機づけに効果的であり、禁煙支援に適していると考えます。

そこで今回、歯科における禁煙支援の実践に向けて、「WHO 簡易歯科禁煙支援プログラム」を中心にお話しします。

＜略歴＞

1995 年　埼玉県立衛生短期大学歯科衛生学科（現・埼玉県立大学）卒業
2006 年　埼玉県立大学保健医療福祉学部助手
2007 年　埼玉県立大学保健医療福祉学部助教
2008 年　群馬大学大学院医学系研究科修了
2014 年　首都大学東京（現・東京都立大学）大学院都市環境科学研究科修了
2015 年　埼玉県立大学保健医療福祉学部講師
2018 年　国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官
2021 年　国立保健医療科学院生涯健康研究部上席主任研究官